

学習プログラムに関する Q&A

活用のしかた

「学習プログラムに関する Q+A」では、男性を対象とした学習プログラムを企画、実施するにあたっての疑問に答える形で、基本的な事項について説明しています。各回答に、『男女共同参画と男性——男性の家庭・地域参画を進める学習プログラム ハンドブック』（※）の中で特に関連する箇所を示していますので、あわせてご覧ください。女性／男女共同参画センター等の事業担当者から寄せられる疑問も集めています。疑問に対して簡潔に回答していますので、これらの回答は現状の一面を説明しているにすぎません。各問について、記述された回答内容をきっかけとして、支援者同士でさらに話し合い、男女共同参画の視点について、より理解を深めるという活用もできるでしょう。

※『男女共同参画と男性——男性の家庭・地域参画を進める学習プログラム ハンドブック』は下記を参照のこと。

<https://www.nwec.jp/about/publish/2012/ndpk5s0000000v9l.html>

Q.なぜ男性を対象とした講座を女性／男女共同参画センターで実施する必要があるのでですか？

A.「女性のための支援がセンターの主要な目的なので、そもそもなぜセンターで男性を対象とした取り組みをおこなわなければならないのかかわからない」という声をききます。確かに、女性の社会参画や政策・方針決定過程への参画の支援は最重要課題です。しかし一方で、男女共同参画を女性の問題として捉えられてきたことが、社会全体の十分な変革を妨げてきた要因としてあげられています（「第3次男女共同参画基本計画策定に当たっての基本的な考え方（答申）」平成22年7月23日）。女性の支援のみに取り組んでも、男女共同参画社会の形成には限界があるのです。男性を対象とした取り組みは、男性にとっても暮らしやすい社会をめざすものですが、それ以上に、女性／男女共同参画センターでは、男女共同参画社会の形成をめざすためのものとして実施していかなければなりません。男女共同参画の視点に立った男性を対象とした取り組みや、男性中心社会の見直しのための取り組みは、今後の男女共同参画の推進の大きな鍵を握っているといえます。

⇒第1章1、第2章1、2

Q.なぜ男性の家庭への参画を促進する必要があるのですか？

A.男性が家事、育児、介護等に費やす時間は、妻が働いているか否かにかかわらず、1日あたり30分程度と非常に短く、国際的にみても最低の水準になっています。また、多くの女性は依然として出産を機に離職しており、再就職しても、男性と同様の責任や賃金を得ることは困難な状況にあります。少子高齢化や経済の長期的低迷等の経済社会の大きな変化に対応していくためには、男性も家庭生活の役割と責任を担い、女性が経済社会に参画する機会を確保することが必要です。最近では、女性の労働力率が高い国は、出生率も高いという傾向がみられ、「女性の社会進出が進むと出生率が下がる」というようなことはありません。また、ひとり暮らしの男性や介護者となる男性も増加しており、男性が生活自立のための技能を身につけることもますます大切になっています。

⇒第1章1、2 統計データ「男性の家庭へのかかわり」、第2章2

Q.なぜ男性が地域で活動することを促進する必要があるのですか？

A.地域では、高齢化やひとり暮らしの増加、人間関係の希薄化等、さまざまな問題が生じています。これらの問題に自治体だけで対応していくには限界があり、地域住民が課題解決に向けた取り組みに参画していくことが不可欠になっています。一般に、働き盛りの男性は、地域活動にほとんど参加しておらず、多くの場合、日常の地域活動は女性が担っています。定年退職後には地域活動に参加する男性は多くなりますが、ひとり暮らしの高齢者男性は、女性に比べ孤立する傾向にあります。また、活動分野にも男女差があり、今後需要の増えていくと考えられる子育て支援や高齢者支援の分野では男性の活動が比較的少なくなっています。持続可能な地域づくりのためにも、男性個人の充実した生活のためにも、男性の地域活動を促進していくことは必要です。

⇒第1章2 統計データ「男性の地域へのかかわり」、第2章2

Q.すでに地域に関わっている男性も多いと思うのですが？

A.仕事中心の生活を送り、地域にはほとんどかかわっていない男性も多くいる一方、確かに、すでに地域活動をおこなっている男性も少なくありません。地域においても自治会長やPTA会長、防災会議委員等、政策・方針決定過程のほとんどは男性が占めており、むしろ女性の参画が全く進んでいない状況です。男女共同参画の地域づくりを進めていくためには、男性の地域とのかかわりは、いくつかに分けて考える必要があります。『男女共同参画と男性——男性の家庭・地域参画を進める学習プログラム ハンドブック (<https://www.nwec.jp/about/publish/2012/ndpk5s0000000v9l.html>) 』では、男性の対象を「地域にかかわっていない男性」「地域にかかわっている男性」「男女共同参画の地域づくりにかかわる支援者」の3つに分けて捉えています。「地域にかかわっていない男性」および「地域にかかわっている男性」に対しては、男女共同参画の視点に立った地域参画を、それぞれの立ち位置に応じて進めていくことが必要です。

⇒第1章 1、2 統計データ「政策・方針決定過程への参画の男女格差」、第2章 3

Q.地域活動における男女共同参画の視点とはどのようなことですか？

A.国立女性教育会館の平成23・24年度『男性の家庭・地域への参画を促進するための調査研究及びプログラム開発』では「男性がおこなう男女共同参画の視点に立った活動または地域づくりの指標」として、次の4つの項目を提示していますので参考にしてください。

<男性がおこなう男女共同参画の視点に立った活動または地域づくりの指標>

1. 「意思決定や主要な業務等は男性、補助的な業務や世話・食事の準備等は女性」といった性別によって役割を分ける慣行を見直す等、男性の活動が、所属する団体メンバーや地域住民の固定的性別役割分担に基づかない関係づくりをめざしている
2. 活動を通して、男性個人が仕事と地域活動や家事・育児・介護等を両立できる「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」をめざしたライフスタイルを指向している
3. 男性の参画が十分でない活動分野（子育て支援、ワーク・ライフ・バランス等）において活動し

ている、またはそれらの分野において多様な男性の参画を促進する活動をしている

4. 女性の参画が十分でない活動分野（地域おこし・まちづくり・観光、防災等）への女性の参画や人材育成を支援している、または地域における多様な政策・方針決定過程への女性の参画を促進する活動をしている

⇒第1章1、第2章、第4章

Q.女性／男女共同参画センターで男性を対象とした学習プログラムを実施す

る際に特に気をつけることはどのようなことですか？

A.他の質問の答えにもあるように、女性／男女共同参画センターで男性を対象とした学習プログラムを実施する大きな目的は、男女共同参画の地域づくり・社会づくりであるため、地域の状況を俯瞰し、対象に応じた学習プログラムを企画、実施することが必要となります。このハンドブックでは、学習プログラムの基礎的要素を「男女共同参画意識の醸成」「実態・課題の把握・理解」「課題解決・実践力の形成」とし、プログラムの内容や構成、方法等を考える際の基盤と捉えています。

学習プログラムの評価は、参加者数や参加者の満足度ばかりを重視するのではなく、修了者が男女共同参画の地域づくりの担い手（「男女共同参画の地域づくりにかかわる支援者」）になるための支援を引き続きおこない、それらを学習の成果として「見える化」していくことも大切です。

また、都道府県のセンターは、この男性を対象とした事業のような新たな取り組みでは、市町村の自治体職員やセンター職員等、「男女共同参画の地域づくりにかかわる支援者」の力量形成をおこなう役割を担うことも大切でしょう。

⇒第2章、第3章